

ら い 来ぶらり

図書館へ気軽にぶらりと来館していただきたいという思いで命名しました。

図書館を英語で「Library(ライブラリー)」といいます。

No. 134 11月号

2016年11月1日 発行

たつの市立図書館

龍野図書館 TEL (0791) 62-0469

新宮図書館 TEL (0791) 75-3332

揖保川図書館 TEL (0791) 72-7666

御津図書館 TEL (079) 322-1007

<http://www.city.tatsuno.lg.jp/library/index.html>



携帯専用サイトへは、
左のQRコードから

(<https://www.lib100.nexs-service.jp/tatsuno-city/mobile/index.do>)

読書と私 No.125

「水泳と読書」

揖保川町 高野 厚志

本を読む切っ掛けとなったのは小学5年生の時、1960年代に活躍したオーストラリアの水泳選手の生活、練習、人生等を写真で紹介した本を読んだのが始まりで、水泳だけでなく色んなスポーツを楽しむ明るい笑顔のスナップ写真など、ページを開く時の匂いや、その生き生きとした笑顔は何回見ても楽しみでありました。

10代は歴史の本や英雄伝、20～30代は自己啓発関係、40～50代は四国、西国巡礼を行うようになり、仏教書等を読んでいました。

本の殆どは図書館に行き、手当たり次第に借り、自分が必要な項目に出会うまで飛ばし読みました。カセットテープもよく借りて朗読を楽しんでいました。

読書の楽しみの一つは、その時々心に響く言葉と何十年も前に読んだ言葉が、何気ない散歩の時などに「あの言葉の意味はこの事か」と気付くことです。

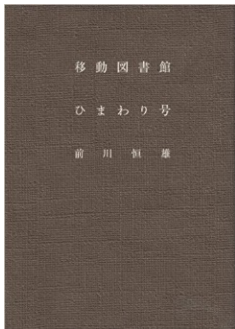
現在私は61歳であり、興味があるテーマは水泳、健康であります。今なお50年以上続けている水泳の進歩と維持のため、最新のストリームライン、泳法、体幹トレーニングや栄養面も学び試しています。有り難いことに中学時代の記録で泳ぐ事ができ、腰痛等も無くなり、細くなりつつあった髪の毛も元気になっている。身体に関することは即効性がある。健康づくりは日々発見があり楽しい。

また、50年も泳いでいるのに「あ、これか」と突然新たな事に気付く。多分水泳でも読書でも若い時の体力と勢いで目標に向かって努力している時には分からない事が、体力の衰えや生きる目的の変化により、それをカバーする技術や、言葉の本来の意味が、無欲になって初めて理解できるようになるからだと思う。

水泳で体を学び、読書で心を学ぶ。体と心、自分自身を知ること。これからも好きな水泳と本を楽しむにノンビリと読みながら、老いて行くなかにおける新しい自分を発見していこうと思う。

※『読書と私』は図書館の利用者に執筆していただいています。

『移動図書館ひまわり号』 前川 恒雄 著 夏葉社



50年ほど前、日本の図書館は古びた本が多く、受験生の勉強部屋となり、大人の利用は少なかった。

日本図書館協会の有山^{ありやま}たかし^{たかし}と司書前川恒雄らは、これからの日本の図書館の方向性を示す『中小都市における公共図書館の運営』という報告書を作った。さらに前川は英国で研修し、新刊書が並び貸出しに行列ができる図書館を見て、図書館員のサービス精神、情熱、能力の高さに衝撃を受ける。

その後、前川は日野市において理想の図書館の創設を、トラックを改装した移動図書館車1台から始めた。「図書費がある程度以上あれば、本が多く貸し出され、本が少ないと利用者が寄り付かなくなる」という実情を知っているため、当時としては高額の図書費を得た。利用者への声掛け、要望された本の取り寄せなど、新たなサービスを開始すると、ひまわり号は人があふ

れ、子どもたちは車に入りきれず行列で待つ状態となった。リクエスト・サービスを始めると、さらに利用者は膨れ上がり、書棚はがらがらになった。「動かない図書館がほしい」という児童の言葉から、電車を再利用した児童図書館ができ、昭和48年には日野市立中央図書館が完成した。前川が起こした改革は、当時の日本ではかなりの困難を要したが現実のものとなり、それ以降日野に倣った日本の図書館は飛躍的な発展をとげ20年後の貸出冊数は25倍となった。

自立した個人として利用者は自ら足を運び、自らの考えで本を選ぶ。図書館員は、利用者が本来持っている向上心と知識欲に応えられる本をそろえ、利用者の求めに応じて本の案内をする。このように利用者と図書館員によって作られるのが図書館の原点といえよう。現在、取り巻く環境が変化している図書館において、大切なものを見失わないようにすることを教えてくれる。昭和63年出版（筑摩書房）の待望の復刊である。（揖保川図書館 上田）

トピックス

オータムフェスティバル in 龍野



レトロな龍野地区の街並みで、さまざまなイベントが開催されます。龍野図書館も会場として下記のイベントを開催します。是非お立ち寄りください。

貴重本の一般公開

世界に限定33部の貴重本『Michelangelo: La Dotta Mano』を一般公開します。

【日時】11月19日(土)・20日(日) ※11時～15時
【場所】龍野図書館(2階 展示室)
【申込】不要

龍野北高校生による

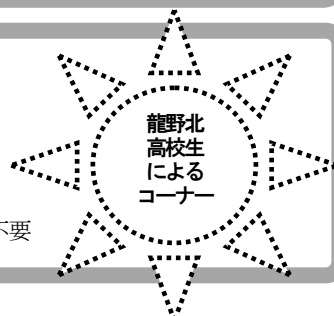
パネルシアターと絵本の読み聞かせ

【内容】パネルシアター「三びきのこぶた」ほか
【日時】11月19日(土) 11時～12時
【場所】龍野図書館(1階 絵本コーナー)
【申込】不要

雪だるまフクロ千作り、カンゴでGO!、フックカバーを作ろう!、考えるお絵かき7 などなど

龍野北高校生によるコーナーがもりだくさんです。

【日時】11月19日(土) 10時～14時 【場所】龍野図書館(2階 研修室) 【申込】不要



おすすめする子どもの本・124

『ティリーのねがい』 フェイス・ジェイクス 作 小林 いずみ 訳 こぐま社

ティリーは、ある子ども部屋の人形の家で働くメイドでした。褒められることもなく一日中働くことにうんざりしたティリーは、自由に暮らせる自分の家を見つけようと、夜のうちに人形の家を抜け出しました。

小さな人形のティリーには、子ども部屋から出るのも階段を下りるのも大変な事でしたが「ぼうけんなくして うるものなし、よ」となんとかやりとげました。しかし、玄関に辿り着くまでにすっかり疲れ果ててしまい、その夜は物入れの中にあつたバスケットで眠りました。早朝、ティリーが目覚めるとテディベアのエドワードが、ここは猫のカゴだから見つかったら大変な事になると教えてくれました。ティリーが自分の家を探していることを話すと、エドワードが協力してくれることになりました。

ジャングルのような庭を抜け、庭の隅の温室に辿り着いたティリーとエドワードは、

家にするのにピッタリな箱を見つけました。ティリーは汚れた箱を隅々まで掃除し、エドワードが持ってきて

くれたがらくたで家具を作りました。1週間、ティリーは休まず懸命に働いて、ついに自分の家を作りあげました。「こんなすてきなうちは みたことないよ。きみは、なんてすごいんだ!」。エドワードの言葉を聞いたティリーの顔は、誇らしげに輝きました。

細部まで描き込まれた絵は見ていて楽しく、冒険の末、自分だけの素敵な家を作りあげる結末には達成感があります。読んでもらうなら5歳から。(御津図書館 杉岡)

『チム・ラビットのおともだち』 アリソン・アトリー 作 石井 桃子 訳 童心社

チムは草刈り場のはずれに暮らしている子うさぎです。ある日、お母さんはチムに薪拾いを頼みます。チムは友達と遊びたかったので「たきぎひろいはじょうずじゃない」と答えますが、お母さんはチムを諭し、その気にさせます。さっそくチムは森へ行き薪を拾い、そりに載せます。そしてその

まま森の奥へと入って行きます。そこへキツネの親子がチムの方へやって来たので、そりの下に隠れますが、親ギツネはそれをちゃんと知っていました。「チム・ラビットでてこい」とキツネが言うとチムは食べられてしまうと恐る恐る這い出しましたが、自分は

ただのうさぎではないことを思い出し、しゃんとしようと思いました。周りでお日様やフクロウ、カヤネズミ、モグラ… 友達が音もたてずに、じっとしてチムを励ましています。チムは「ともだちがぼくをまもってくれます」とキツネに言いました。キツネは誰も見えないので落ち着かない様子です。その時、チョウチョがキツネの耳に飛び込み、ハリネズミが足を刺し、カブト虫が足をくすぐったりと友達がキツネを攻撃します。キツネが足を川で癒している隙にチムは息を切らして家に戻ってきます。待っていたのはお母さん手作りの大きなあげりんごのごほうびでした。

元気で機転の利くチムに共感を覚え、子どもを見守る母親の温かさに幸せな気持ちになります。のびのびとした線の挿絵がお話によく合っています。「チム・ラビットとキツネ」の他6つのお話が入っています。6歳くらいから。(龍野図書館 石井)



11月の行事予定

※詳細は各館へお問い合わせください。

★ えほんのじかん・・・絵本の読み聞かせ、わらべ歌など

龍野図書館 【対象】1～3歳児、保護者

12日(土) 11時～11時20分
『がたんごとんがたんごとん』他

新宮図書館 【対象】2～4歳児、保護者

14日(月)・20日(日)・28日(月) 11時～11時20分
『かいものづくし』他

揖保川図書館 【対象】2～4歳児、保護者

5日(土)・12日(土)・19日(土) 11時～11時20分
『ぼんちんぱん』他

御津図書館

【対象】1～4歳児、保護者

13日(日)・20日(日)
11時～11時20分
『もりのてぶくろ』他

【対象】5歳児～

13日(日)・20日(日)
11時30分～11時50分
『ひとまねこざる』他

★ おはなしのじかん【対象：5歳以上】・・・絵本の読み聞かせ、わらべ歌、語りなど

新宮図書館

5日(土)・12日(土)・19日(土)・26日(土)
10時15分～10時45分「チム・ラビットとはさみ」他

揖保川図書館

5日(土)・12日(土)・19日(土)
11時～11時30分「北風に会いにいった少年」他

★ 読書会【対象：一般】・・・本を読んで感想を話し合う

龍野図書館

11日(金) 10時～11時30分
『八月の六日間』北村薫 著

揖保川図書館

18日(金) 10時～12時
『種をまく人』
ポール・フライシュマン 著

御津図書館

16日(水)
13時30分～15時30分
『無私の日本人』磯田道史 著

★ 子どもの本を読む会【対象：一般】

龍野図書館

10日(木) 10時～11時30分
『時の娘』ジョセフィン・テイ 著
※会場はお問い合わせ下さい

★ 古文書を読む会【対象：一般】

御津図書館

12日(土) 13時30分～15時30分
古文書の解説

館内特集・展示 (一部紹介)

龍野図書館

健康なからだ

秋も深まり、冬へと移り替わる季節です。体調を整え、元気な身体を維持するためのさまざまな健康法についての本を紹介しています。

【期間】11月29日まで

新宮図書館

80周年記念展示 姫新線 過去から未来へ

80周年を迎える姫新線のこれまでを懐かしい写真や新聞記事で振り返ります。前身の姫津線時代の貴重な資料も展示します。

【期間】11月28日まで

揖保川図書館

～穴田瑞江の布絵の世界～ “なつかしさの風景”

絵の具の代わりに思い出の布や糸を使った布絵の作品を楽しみください。
実演 11月6日(日)・23日(水・祝) 14時～15時
【期間】11月27日まで

雑誌紹介

たつの市内の図書館の雑誌を紹介します。

【期間】11月29日まで

御津図書館

魔女・魔法 ふしぎがいっぱい

秋の夜長は魔女たちの時間…魔法のほうきにまたがって、さあ出発だ!

魔女や魔法をテーマにした児童コーナーの特集です。

【期間】終了日未定